事例番号:380192

原 因 分 析 報 告 書 要 約 版

産 科 医 療 補 償 制 度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 38 週 5 日 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈、基線細変動を認め、一過性徐脈を認めない

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 3 日

15:40 破水・出血のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 3 日

15:46- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線 160-180 拍/分の頻脈、基線細変動減少、一過性頻脈減少、軽度遅発一過性徐脈を認める

17:00 陣痛発来

21:00 体温 37.5℃

妊娠 39 週 4 日

3:15 経腟分娩

胎児付属物所見 肉眼的所見で卵膜の脆弱化あり、胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎 stageⅢ(Blanc 分類)

5) 新生児期の経過

⑴ 在胎週数:39 週 4 日

⑵ 出生時体重:2700g 台

⑶ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析:pH 7.33、BE -8mmol/L

⑷ ｱﾌﾟｶﾞｰｽｺｱ:生後 1 分 5 点、生後 5 分 7 点

⑸ 新生児蘇生:人工呼吸(ﾊﾞｯｸﾞ・ﾏｽｸ)

⑹ 診断等:

出生当日 新生児仮死

⑺ 頭部画像所見:

生後 15 日 頭部 MRI で著明な脳室拡大、広範な脳軟化、脳萎縮があり、低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

⑴ 施設区分:診療所

⑵ 関わった医療ｽﾀｯﾌの数

医師:産科医 1 名

看護ｽﾀｯﾌ:助産師 1 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

⑴ 脳性麻痺発症の原因は、入院前の妊娠 38 週 5 日以降、入院となる妊娠 39 週 3 日までの間に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血によって中枢神経系障害をきたし、低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考える。

⑵ 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

⑶ 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

⑴ 妊娠 39 週 3 日、出血のため受診、入院後の管理(破水の確認、分娩監視装置装着、超音波断層法による胎盤の確認、出血源の検索と処置、抗菌薬投与)は一般的である。

⑵ 妊娠 39 週 3 日 20 時における胎児心拍数陣痛図で基線細変動あり、一過性徐脈なし、一過性頻脈(±)、心音ﾍﾞｰｽ高めと判読し、分娩監視装置を連続的

に装着し、胎児心拍数ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ下で経過観察としたことは一般的である。

⑶ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析を実施したことは一般的である。

⑷ 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(ﾊﾞｯｸﾞ・ﾏｽｸによる人工呼吸)および呼吸状態不良のためA医療機関NICUに搬送したことは、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

⑴ 学会・職能団体に対して

胎児期に中枢神経系障害を発症した事例について集積し、原因や発症機序について、研究を推進することが望まれる。

⑵ 国・地方自治体に対して

胎児期の中枢神経系障害発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。